

角川総一の 金融 逆さメガネ

「縦」のものを横にしようにも
「横」のものを縦にしようにも
「逆さメガネ」という。もちろん、たとえようがないほど無精者であることをからかつて言う言草だ。

でも、まじめに考えると「横にした方がずっと分かりやすいのに、なぜか慣例的に常に縦に並べて表示される」ってことは、意外にたびたびお目にかかるものだ。というわけで、今回はちょっとテクニカルなデータの見せ方についてのお話。

買い手あるいは売り手の立場で投資信託に携わっている方ならお分かりだと思うが、その運用成績

第30回 過去からの推移が掲載されない 外貨建てMMFのデータの謎

外貨建て資産として有力な外貨建てMMFだが、マネー雑誌などに掲載される分配率はなぜか直近のものだけ。顧客は過去からの推移が知りたいはずだが…。

をチェックするうえで過去からの時系列のデータが必須だ。これは投資信託に限ったことではない。業界を横断的に見れば、

外貨建てMMFのデータに 抜け落ちているのは…

ところで、多くのマネー雑誌等

金の先物取引にしろ、個別株にしろ、あるいは今はやりの通貨証拠金取引なる為替の売買でも同じこと。このような、時々刻々その取引条件が変化する対象物を観察しようとした場合、最も重要なデータとなるのが、過去からのその商品の価値の変動を示すチャートである。

ところで、同じ資産運用対象となるべき預貯金については、少なくともその営業現場で、過去のチャートが用意されていることはまずない。預金を取り扱う側も、預金預入れの勧誘を受ける側も「期間1年と2年の定期預金の過去からの推移」なるグラフをご覧になったことがおありになるか？ たぶんないと思う。

思うにこれは、定期預金は固定金利であり、金利の動き自体も安定したものであるため、「過去からの推移」を示す必要はないという判断なのだろう。

定期的に掲載されているマネーデータの欄では、ちょっと目を凝らすと「？」と思うデータに出くわす。

例えば外貨建てMMF。本誌はマネー雑誌ではないので商品説明をくどくどとは行わないが、まあ「海外の特定通貨の短期金融資産に集中投資することで、その通貨の金利とともに、あわよくば為替の差益を狙える商品」だ。あえて付け加えるとするれば「いつでも換金自由、ペナルティもない。外貨預金にとって最大の強豪（競合）相手」だ。

「外貨建て資産に手を出すなら最初はこれがよい」とされているのだが、この外貨建てMMFのデータについては、もっぱら図表1のような格好で誌面に掲載される。

が、これは本来、毎日のように基準価額が変動し、それにつれて毎日分配金変動している商品なのである。にもかかわらず、この手のデータはこのような格好でしか掲載されないのだ。たしかにこれはこれで、最近の各社取扱いM

MFの分配率は分る。だが、この表には決定的に抜け落ちている要素がある。

それは、例えば複数の外債ファ

ンドの運用成績を比較しようとした場合を想定してみればよい。この場合、これらのファンドについて単に過去1年の運用成績だけを

らの基準価額の推移を示すグラフが示されていないければ、その報告書は明らかに欠陥商品だと言わねばならない。

ところが雑誌等では、外貨建てMMFについてはこのような表しか一般的に提供されないのだ。これはおそらく、「外貨建てMMFは公社債型ファンドであり、運用成績はまま安定しているため、預金と同じような扱いでのデータ提供で足りるであろう」との無意識の前提が、多くの関係者にあるからだろう。

だが顧客は、本来的には過去からのデータの推移グラフを欲しているはずだと思ふ。

**長く預金のみを扱ってきた
金融機関には重要テーマ**

ではそれを描いてみよう。ここで最も知りたいことは、「いま現在、A社が扱っているファンドが一番分配率が高いが、過去においてはどうかだったのだろうか」という問題意識だ。

さて、現在、高金利通貨として最もポピュラーな通貨と言え

一般的には豪ドルだ。そこで各証券会社が扱っている豪ドル建てMMFについて、過去2年半程度にわたる分配率の推移をグラフ化しておいた(図表2)。

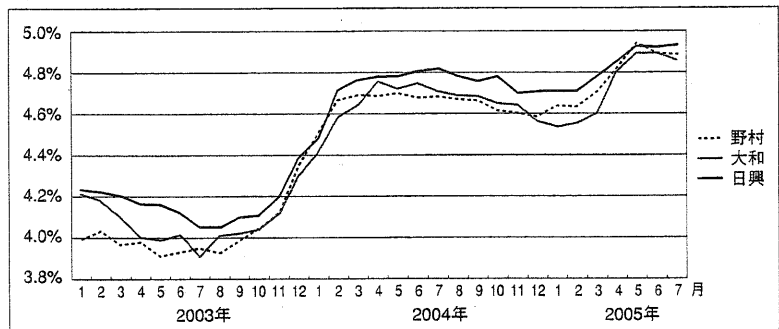
ここでとりあえず明らかにすることは、「各社の取扱いMMFの分配率の位置関係(ランキング)はどの時期でもみてもおおむね同じ」ということだ。少なくとも、しよつちゅう順位が入れ替わっているわけではないことはお分かりいただけると思う。

考えてみれば、長きにわたって預金のみを扱ってきた多くの金融機関にとって、こうした時系列のデータの推移を正しく認識してもらうための資料作成は、いまでも重要なテーマであると思うが、如何?

図表1 豪ドルMMFの各社別分配率

主な取扱い会社	5月	6月	7月	預入単位
野村証券	4.943%	4.893%	4.885%	10豪ドル以上1豪セント単位
大和証券	4.893%	4.889%	4.875%	1豪セント単位
日興コーディアル証券	4.927%	4.922%	4.938%	10豪ドル以上1豪セント単位

図表2 豪ドル建てMMFの分配率推移を各社別に見る



数字で縦に並べて、それで良しとするだろうか。まずあり得ない。顧客は必ずと言っていいほど、それら複数の外債ファンドの過去からの基準価額の推移グラフを要求するはずだ。ちょうど金の先物取引を行おうとする顧客が、過去からの金価格の推移グラフを要求するようにだ。

株式型ファンドの運用報告書に過去か

図表2で示したデータは、特定の会社の特定の商品の有利性を指摘するために用いたものではありません。一般論として、データの示し方についての試論を展開するための材料として利用しただけのことです。この点についてのご理解を賜らんことを。